

令和3年度 学校評価（星城高等学校）

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立		
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成		
学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の具現化を目指し、「感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成」に取り組む。その中で「礼節」「進学」「スポーツ」「国際交流」「英語」に重点を置き確実に進展させる。 ・令和4年度から始まる新制度の基礎固めの年度とする。新設する明德コースの詳細を完成させ、学校全体で取り組む。 ・大学推薦基準、成績評価基準を統一し整備を行う。 ・県内の全中学校・中学3年生に対し、明德コースに関する広報の充実、周知の徹底を図る。確実に令和4年度新入生500名を確保する。 		
重点目標	<p>I 礼 節：教職員が率先して行動することで、生徒の「礼節・感謝」の徹底を図る。</p> <p>II 進 学：進路指導を充実し、昨年度を上回る進路実績を目指す。</p> <p>III スポーツ：全国大会出場生徒数100名を目指す。</p> <p>IV 国際交流：新たな交流国を探すと共に現交流国と親交を深める。</p> <p>V 英 語：各コースにおいて検定等の目標を明確にして、英語の星城を一步すすめる。</p> <p>VI 明德コースの詳細確定と実施に向けての条件整備や広報の徹底を行う。</p>		
重点目標	評価項目	担当	具体的方策<数値目標>
I	規則正しい生活習慣	仰星コース 第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○各学期1回以上クラス担任による面談を実施する。面談を通して、日々の生活習慣に係る指導を行ない規則正しい生活習慣を身につけさせる。 ○清掃の指導を徹底する。ST後の清掃活動を全員で行い、日々の清掃活動を充実させることで集団生活における基本的な姿勢を身につけさせる。 ≪年間出席率98%以上≫
I	祈明日講読	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○「建学の精神」の具現化をすすめるため、LHRで年2回「祈明日講読」を実生活の事例をあげるなどして生徒の理解度を高められるように実施し、朝のSTで「誓いの言葉」唱和を徹底する。 ○教職員からの率先した挨拶の励行と、感謝の言葉を口にすることを実践する。 ≪朝のSTで「誓いの言葉」唱和を全クラス毎日実施する≫
I	コンプライアンスの徹底 生徒主体の活動	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○学年集会（学年主任講話等）を通して、学校のルールや社会的規範を守り行動することの大切さを理解をさせる。 ○星城高校の生徒として一人ひとりが自ら判断・行動できるような成長を促すために、級長の中から学年リーダー・サブリーダーを選出し、生徒により学年行事の運営や、集会時の整列指示・身だしなみ等の確認を行う。また、学年集会や式典での集合時間の徹底を行うことで、修学旅行での自主的な行動に結びつく力を養う。 ○級長・副級長会を実施し、上記内容が円滑に行われるように話し合いを行なうとともに、助言・指導を行う。 ≪学年集会・式典において、リーダー・サブリーダーの指示で、12クラス中10クラス以上が、5分前に集合完了する≫
I	礼節・感謝	第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ○担任を中心に個人面談を年間4回以上（1・2学期に最低2回）実施し、他者への感謝や礼儀など、高校3年生として相応しい言動や考え方を身につけることができるよう指導する。 ≪個人面談4回以上実施≫
I	生活習慣の確立	仰星コース 生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導部・副担任による登校時の挨拶指導において、挨拶と共に服装の乱れがないかを生徒に確認させるように声がけをする。また、担任による個別面談を複数回実施し、生活習慣の確認や、抱えている悩みなどの早期把握に努め、安定した高校生活が送れるよう、アドバイスができる体制をとる。 ≪年間出席率が98%以上≫
I	交通ルールの遵守とマナーの向上	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○愛知県警愛知署主催の「200日間自転車無事故・無違反ラリー」に参加すると共に、講話等を利用して交通ルール遵守を喚起していく。あわせて、このラリー期間中に、歩行通学者に対しても交通安全とマナーをチラシを配信するなどして喚起していく。 ○全国交通安全運動期間、本校自転車通学指導週間では、注意事項をClassi配信するなどして安全利用五則の徹底を図る。 ○各学期の始めに、生徒指導部から建学の精神に触れ、マナーを啓発していく。 ≪自転車と車の接触事故 年間6件未満≫
I	健全な心身の育成	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で実施する教育相談講話の内容を充実させる。 第1学年では、性的少数者（LGBT）について深く理解させる。 第2学年では、異性との関係にどのように向き合えばよいかを理解し、興味本位ではない正しい性の知識と行動を身につけ、「いのち」について考えさせる。 第3学年では、人と人との関わりあいの中で、互いを大切にする気持ちと相手を尊重する心を考えさせる。 ≪各講話終了後のアンケート調査で、生徒の理解度が95%以上≫
II	学習習慣の確立と基礎学力の養成	仰星コース 第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習は、学年で国語・数学・英語を週ごとに企画・準備し、学力バランスに配慮することで基礎学力を総合的に養成する。 ○各学期1回以上クラス担任が実施する面談において、日々の学習に係る取り組みや進路に係る指導を充実させ、学習意欲を向上させるとともに学習習慣の確立を図る。 ≪国・数・英それぞれにおいて、GTZ「A」以上の生徒が50%以上≫
II	ポートフォリオの活用	第1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○GTZを指標として、2年次のコース選択指導を含めた学習指導・進路指導面談を年3回実施する。 ≪GTZ「D」ゾーン50%以下≫ ○1人1検定資格取得を学年の目標として掲げ、各種検定試験に意欲的に取り組むように働きかける。 ≪50%の生徒が1人1検定受検≫ ○ポートフォリオを活用した学びの履歴の積み上げと、GTZデータを次年度に引き継ぐ整備を行い継続的な進路指導を行う。
II	進路目標の明確化	仰星コース 第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○朝学習の取組指導や担任による面談を通して、生活リズムや家庭学習等の助言を行い、学習意欲の向上を図る。 ≪第1回スタディーサポートと比較して、第2回スタディーサポート国・英・数のGTZを維持または向上した生徒が8割以上≫
II	普通コース「基礎学力の向上」 特進コース「大学進学を意識を高める」	第2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○朝の10分間学習を意欲的に取り組む指導を行うことで基礎学力の向上を図る。 ○スタディーサポートの事前シート・振り返りシートを活用し、生徒自らが学習習慣等を見なおすことでGTZの向上を図る。 ○スタディーサポート等のデータを基に面談を行い、3年次の進学・就職目標を達成できるように指導を行う。 ≪特進・アス特GTZ A・Bゾーン50%以上を目指す。普通コースGTZ Dゾーン50%以下≫

重点目標	評価項目	担当	具体的方策≪数値目標≫
Ⅱ	大学進学実績の向上	仰星コース 第3学年	○面談を通して、各生徒の志望校の情報を把握し、進路目標を明確化する。 ○一人でも多くの生徒が国公立大学に出席できるようにするため、授業・補習・朝学において補助教材を利用した問題演習を行い、大学入学共通テストに対応できる学力の定着を図る。 ○生徒の成績・志望校を全教員で共有し、より効果的な進路指導・学習指導を行う。 ≪国公立大学合格者15名以上(旧帝大2名を含む)≫ (在籍54名)
Ⅱ	進路獲得の実現	第3学年	○特進・アスリート：小論文講座や進学講座などを通じ、総合型選抜・学校推薦型選抜を中心に進路に向けての活動をサポートする。 ≪年内にすべての生徒が1つ以上進路先を獲得する。(一般入試を除く)≫ ≪進学希望者GTZのDゾーン50%未満≫ ○普通・理・文：ワンランク上の大学への挑戦と進路獲得を目指した指導をする。具体的な指導は、①個人面談による朝の個別学習指導②コース全体として英語検定受験を推奨するなどの英語学力向上指導③受験期の個別添削指導の徹底を実施する。 ≪国公立大学合格者10名以上≫
Ⅱ	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善	仰星コース 学習指導部	○「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業を増やすために、主要教科で他の教員の授業を見学する授業研修を実施して授業改善を進める。 ≪5教科で、各教科2回以上授業見学を実施し、授業改善に役立てる≫
Ⅱ	長期休暇を利用した学力伸長	仰星コース 学習指導部	○長期休業中の学習計画を立てさせ、担任が点検し、助言・修正することでより高い学力の伸長を図る。 自分の長期休業中の学習計画に取り組むことができた生徒が80%以上
Ⅱ	学習習慣の確立	学習指導部	○進学に必要な基礎学力を定着させるために、家庭での学習時間確保を促す。 ①講話や学習・進路だよりで生徒に直接家庭学習の重要性を発信する。 ②教科主任会等で教員に家庭学習時間の情報を伝え、授業担当者・担任等から生徒に対し、家庭での学習が継続するよう促す。 ≪学習（進路）だよりを学期に2回以上発信する≫ ≪スタディーサポートにおける学習時間調査の結果において、平日の学習時間「ほとんどしない」が40%以下≫
Ⅱ	進路目標実現のための学力向上	学習指導部	○進学に必要な学力を身につけるための学習を促す。 ①学年会等で担任に実力テストの結果を提示し、面談等で活用して事前事後学習の指導を進める。 ②ベネッセの担当者を招いて学習状況の分析会を開き、学力向上についての方策を得る。 ③授業中心の学習の大切さを学習・進路だよりなどを通じて生徒に伝える。 ≪スタディーサポートにおける3教科の「D」ゾーン生徒数が全体の50%以下≫
Ⅱ	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上	仰星コース 進路指導部	○1年生：学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、スタディーサポート事前シート・活用BOOKを使用して到達目標を設定し、学習計画を立案させる。また、結果を基にした事後の振り返りシートを使用して、自己の学力状況を把握させ、次回に繋げる。 ≪担任による生徒面談を年間4回以上実施する。GTZ：S→20% A→60% B→20%(1学年47名中)≫ ○2年生：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。 ≪ベネッセ総合学力テスト(11月)において、国英数総合偏差値50以上が40名。(2学年74名中)≫ ○3年生：学級担任による面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。 ≪国公立大学合格者15名、難関私立大学合格者20名≫
Ⅱ	特進・アスリート 特進コース 進路指導部	特進・ アスリート 特進コース 進路指導部	○特進コースにおいては、特進代表者会議において進路検討会を適宜開催し、生徒の受験の仕方についてコース内で情報を共有し、個々の能力に応じた進路指導をしながらよりよい進路へと導く。 ○1年生：朝学習を活用して検定受験に向けた取組を行うことで、学習習慣の定着と学習意欲の継続を図る。 ≪ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合偏差値50以上が30名以上≫ ○2年生：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。 ≪ベネッセ総合学力テスト11月において、英国数、英国社、英数理いずれかの3教科総合偏差値50以上が30名以上≫ ○3年生：学級担任による個人面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。全員が共通テスト5教科型を受験し、将来的に国公立大学合格30名達成のための礎として国公立大学出願延べ50名をめざす。 ≪3年生国公立大学出願延べ50名、国公立大学合格者10名、難関私立大学合格者10名≫
Ⅱ	進学実績の向上	進路指導部	○各種検定に積極的に挑戦させる。 ≪英検合格：2級5名、準2級25名、3級25名≫ ≪漢検合格：2級5名、準2級25名、3級40名≫ ≪数検合格：2級5名、準2級20名、3級15名≫ ○ライティング講座Ⅰ期を5回、Ⅱ期を10回、Ⅲ期を5回実施し、さらに夏休みを活用して開講数を増やす。内容を充実させリスニング・スピーキング指導を施す。特に、Ⅱ期では、スピーキングの個別指導を企画する。 ≪ライティング講座受講：3級25名、準2級25名≫ ○小論文講座では前期5回・夏休みの集中講座5回(3年生対象)、後期5回(2年生対象)と開講数を増やす。その他、志望理由書書き方講座(3年生対象)を5回に増やし出願前の完成を目指す。 ○1年生：ライティング講座の受講を促し、英検に挑戦させる。漢検、数検にも積極的に挑戦させる。進研総合学力テスト11月結果データをまとめることで保護者会の資料を作成し、コース選択の資料に活用して学習意欲向上に繋げる。 ≪英検受験200名、漢検受験300名、数検受験50名≫ ○2年生：進学補習や小論文講座、ライティング講座を積極的に受講させると共に各種検定にも挑戦させる。進研総合学力テスト11月結果データをまとめることで保護者会の資料を作成し、進路選択の資料に活用して学力向上に繋げる。 ≪英検受験200名、漢検受験200名、数検受験50名≫ ○3年生：6月の進研模試結果をもとに保護者会で目標設定をし、推薦基準となる9月の模試に向けた動機付けをしっかりとさせる。また、夏休み中の補習参加など促し、生徒全員の学力向上に繋げていく。小論文講座を充実させ、総合型選抜・学校推薦型選抜での進路獲得に繋げる。内部進学者増を目指し、進路相談会などを企画・実施する。 ≪内部進学者42名、一般選抜内部出願25名≫ ≪小論文講座受講：基礎80名+実践20名≫ ≪指定校推薦獲得40名≫ ≪県内大学合格：愛知大学5名、中京大学20名、名城大学20名、愛知学院大学30名≫ ≪普通コース：大学・短大合格者延べ150名、中京大学5名、名城大学5名、愛知学院大学15名、名古屋学院大学10名、中部大学10名≫
Ⅱ	第一次就職内定率の向上	進路指導部	○生徒の希望と企業の特性・業務内容などとのミスマッチを防ぐために、生徒との面談を十分に行い生徒の個性を把握する。 ○就職問題集を早めに購入させて授業後に学習させることで学力向上と就職試験対応を図る。 ○模擬面接の練習ばかりでなく、普段の学校生活の中から言葉使いや挨拶などの励行を指導する。 ≪第一次就職内定率100%達成≫
Ⅱ	進路実績	SGL開発部	○3年生に対して、これまでのSGL活動で学んだことや経験したことをまとめる指導に重点を置く。そして、まとめを利用して学校推薦型選抜や総合型選抜で出願し、国公立大学への合格を目指す。 ≪学校推薦型・総合型選抜での国公立大学合格者数 A：5人、B：3人、C：1人、D：0人≫
Ⅲ	強化部の入学生徒増加と人間性の向上指導	部活動支援	○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化し、強化部の入学生徒増を目指す。 ○日々の部活動指導を通じて、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指すと共に、人間性と技術面の両面での向上を図る。 ≪スポーツにて生徒110名確保≫

重点目標	評価項目	担当	具体的方策≪数値目標≫
Ⅲ	部活動運営の把握と管理	部活動支援	○各種大会日程や結果を教職員に向けて広報し、部活動の活躍を応援する体制作りに努める。 ○全国大会出場に向けての環境作りと支援を行う。 ≪応援する体制作りができた≫
Ⅲ	部活動ガイドラインに則った部活動運営	部活動支援	○各クラブの活動計画に基づいて部活動の現状を把握し、運営・管理を徹底する。 ○「部活動指導ガイドライン」や「部活動に係る活動方針」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営を行う。 ○部活動施設の設備の点検など安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。 ≪部活動における不祥事ゼロ≫
Ⅳ	交流国と親交を深める	庶務・国際交流部	○現行のアメリカ、ブルガリア、オーストラリア、カナダ、（パラオ）の交流校および各協会と密に連絡を取り交流を深める。本年度も昨年度と同様にして、新型コロナウイルス感染症の影響で短期留学を実施することができない。よって、オンライン交流等を企画・実施するよう努める。 ≪R4年度の留学の計画が、上記5カ国で進んだ場合「A」、4カ国の場合「B」、3カ国未満の場合「C」≫
Ⅳ	新たな交流国の開拓	庶務・国際交流部	○旅行者や国際交流協会などの協力を得ながら新たな交流国の開拓に努める。 ≪新たな交流国ができた場合「A」、新たな交流企画が実現できた場合「B」、現状維持の場合「C」≫
Ⅳ	国際交流	SGL開発部	○総合的な探究の時間において、各国の開発支援の現状や未解決の課題についてグローバルな視点で学ぶ、海外とのオンラインツアーを企画する。SDGsに関連付けた学びを展開し、海外の現地住民との交流を深めるためにオンラインでの質疑応答や意見交換などを行う。 ≪オンラインツアーの実施回数 A：4回、B：2回、C：1回、D：0回≫
Ⅴ	1人1検定資格取得	第1学年	○1人1検定資格取得を学年の目標として掲げ、各種検定試験に意欲的に取り組むように働きかける。 ≪50%の生徒が1人1検定受検する≫ ○ライティング講座を積極的に受講するように働きかけ、英語検定の受検の推進と3級取得を目指す。 ≪ライティング講座各学期受講者数50名≫
Ⅴ	英語学習の定着	仰星コース 第2学年	○意欲的な朝学習への取り組みや、授業の予習・復習の積み重ねを指導することで、英語学習習慣の定着を図る。 ≪現在12%の英検2級以上保持者の数が、25%以上≫
Ⅴ	英語の学力の向上	仰星コース 第3学年	○大学入学共通テストで安定した成績を残すことができるようにするため、授業・朝学で問題プリントを配布して、継続した演習問題（リスニング含む）への取組を実施する。 ≪大学入学共通テスト120点以上30名、140点以上10名≫（在籍54名）
Ⅵ	明德コースの広報	広報部	○普通科・明德コースの広報は、全中学3年生向けに新コース誕生と特徴のチラシを作成し、4・6月に学校訪問などで配付することで浸透を図る。 ≪4月・6月に、県下418校の中学3年生全生徒にチラシを配付する≫ ○普通科・明德コースの詳細な情報を重点校を対象にして、9月パンフレット、10月リーフレットに掲載し、配付すると共に内容を説明することでPRを図る。 ≪9月・10月は、重点校174校の中学3年生全生徒にパンフレット・リーフレットを配付する≫
Ⅵ	明德コース「総合的な探究の時間」の開発	探究学習研究委員会	○8・9月からの広報活動に向けて、「総合的な探究の時間」の3年間の指導計画を制作し確定をする。また、次年度からの普通科・明德コースで実施する「総合的な探究の時間」2単位のスタートに向け、教職員への周知徹底と「探究学習」を研修する機会を設ける。 ≪職員会議等にて職員を対象とした「探究学習」研修を2回以上実施≫